

2022.02.17. 木曜礼拝

主はいつも祈りに答えられる イザヤ 65 章

JD ファラグ牧師

こんばんは。週半ば「聖書の学び」へようこそ。木曜日の夜は、聖書を書ごと、章ごと、節ごとに学び、「イザヤ書」残すところあと 1 章で学び終えようとしています。慌てないで、今夜は、この 65 章を味わいたいと思います。そして御心なら、来週最後の 66 章をします。それでは、祈りましょうか。今夜の私たちの時間を神が祝福下さるよう一緒に祈りましょう。

天のお父様。主よ、本当に本当に本当にありがとうございます。木曜日の夜、私たちがこの場所に来て、多くの人が、特に最近、忙しい日々、ストレスの多い日々を過ごしています。木曜日の夜の「聖書の学び」は、私たちにとって、ただただ休息であり、安らぎであり、すべてを脇に置く機会でもあります。私たちは信者の体として集まり、聖書を開き、心を開き、大きな期待を持ち、あなたが御言葉を通して、私たちの人生に語りかけて下さるのを待ち望みます。主よ、一緒に過ごすこの時間をとても楽しみにしています。いつもとても祝福され導かれています。今夜私たちの前にある章も間違いなく、例外ではありません。ですから、主よ。私たちは心を静め、あなたが私たちを受け入れて下さるよう、注意を集中させたいと思います。私たちは、よくありがちな何かに気を取られたり、心に迷いが生じたりしたくありません。ですから主よ、どうか、私たちが集中して取り組めるよう助けてください。あなたが私たちのためにご用意されている事を見逃したくないからです。主よ、私たちは飢え渴いていて、必要なのです。私たちは必要としている者たちです。主よ、私たちの必要性を満たせるのはあなただけだと知っています。主よ、お願いできませんか？ イエスの御名によって祈ります。アーメン、アーメン。

それでは！ 今夜、私たちの前にある章は、神の御言葉の中で、多くの箇所がありますが、主がいつも祈りに答えてくださるのが分かる箇所の 1 つです当たり前のことを言っているのは分かっていますが、さっと言いますが、決まり文句なのですが、祈りには力があり、神は祈りに答えてくださいます。しかし、私たちには問題があります。問題は、これから見るように、私たちが思ってもないような方法で、主が私たちの祈りに答える必要があるとご判断されることが多いことです。どういう意味か分かりますか？ 私の言っていることが分かりますか？ あなたが祈り、神の答えを待っていて、神は答えて下さいますが、それは問題ではありません。問題というのは、私たちが、その答えが好きではないこと。OK。これで話ができるぞ～ 神は、必ず祈りに答えてくださいます。神が祈りに「はい。」と答えて下さると、お～私たちはその答えが大好きですよね。「はい、主よ！主よ、ありがとうございます。」時に、神が「ダメ。」と仰ることもあります。「ダメなのですか？」「ダメです。」または、これはどうです？「待ちなさい。」あ～「待つのですか？ちょっと待ってください。待つ？」「そう、待ちなさい。」「私は待ちたくありません。」「いいえ、それが答えです。待ちなさい。時期が悪いのです。」これが今夜、この章で学ぶ内容です。その理由は、この 65 章は、63 章と 64 章の祈りに対する神の答えがあるのです。先週までの 2 週で学んだこの 2 つの章は、公平に見ても、美しく壮大な祈りであり、本当に神に嘆願し、泣き叫んでいます。「神よ、私たちを憐れんでください。」2 章分の長さの祈り、美しい祈りです。さてこれは、今夜の教訓の 1 つでもあります。神がその祈りに答えられますなぜ、そんな風に言うのか？ なぜなら私たちは祈り、こう言うのが大好きですよね。「それについて祈ったんです。」「それで？」「ええ、それについて祈ったんです。」「待って。それで？」「それで？って？ どうしてそんなことを言うの？」そう私たちは言いますよね。「それについて祈ったんだ。」それで終わり？ 神は何と仰ったのですか？「ほら、私祈ったん

だ。それでこれが私の祈りへの神の答えだよ。」ですから今、神がその祈りに応えてくださいます。これが神の応答です。祈りは、独り言ではなく、対話だと言われています。私たちが祈り、神が答えて下さいます。今夜、私たちの前にあるこの章は、その祈りに対する神の答えなのです。ネタバレですが、それは、彼らが考えていたこととは全く違います。これが正に、神はよく、私たちの祈りに私たちが考えていない方法で、私たちが考えていない時に、実際に答える必要があると考えられるのです。なぜなら、神のご方法は私たちの方法よりも常に高尚だからです。この章の終盤に行くとき、神は多くの場合、”事前に後のこと”で私たちの祈りに答えてくださることが分かります。説明させてください。私たちの祈りに応えて下さり、私たちが祈っている祈りの先へと私たちを連れて行かれます。今夜それを、この章の終わりに見るようになります。では、1節から、神が答えられます。

イザヤ 65

1 わたしはわたしを求めなかった者に／問われることを喜び、わたしを尋ねなかった者に／見いだされることを喜んだ。わたしはわが名を呼ばなかった国民に言った、「わたしはここにいる、わたしはここにいる」と。

OK、OK、非常に面白いスタートを切れました。これが、祈りの答えですか？ ーはい。

お～、神はここで何を仰っているのでしょうか。ここでの答えは何でしょうか？ はい、これは、バビロンに追放されたユダヤ人が主を求めていたことを物語っています。しかし神の答えは、「ご自分を求めている者に見つけられる」というものです。つまり、神の民ではなく、異邦人のことです。そして、2節に続けてこう仰います。

2 よからぬ道に歩み、自分の思いに従うそむける民に、わたしはひねもす手を伸べて招いた。

その通りです。それだけで、一通りの説教ができますよ。しませんが、出来ますね。お～神は、私たちのことをどれだけご存知でしょうか？ 私たちが自分自身を知る以上に、神は私たちをご存知です。私たちは、神のご方法ではなく、自分のやり方で歩きます。そしてその方法は、常に良い方法ではありません。

「人を見て自ら正しいとする道でも、その終りはついに死に至る道となるものがある。」(箴言 14:12)

イザヤがこの祈りへの主からの答え、神のお考え、神のご方法を記して参照しているのは、興味深いと思います。イザヤが、御霊に導かれた直後に書いているからです。「神のご方法は、私たちの方法ではない。」

「神のお考えは私たちの考えではない。」自分たちだけで、、愛と慈悲に満ちた神を想像してください。神は御腕を伸ばしておられます。反抗的な神の民に。なぜ彼らは反抗的なのか？ 自分たちのことを行い、自分たちの道を歩いているからです。よろしくありません。彼らは自分の考えに従って歩んでいます。興味深いことに、使徒パウロが、「ローマ人への手紙」の中でこの節を引用しています。これには本当に感謝します。「ローマ人への手紙 10章 20節」で語ります。

ローマ 10

20 イザヤも”大胆に”言っている、

(よくぞ言ってくれました。) イザヤも大胆に言っていると言いながら、この節を引用しています。

...／「わたしは、わたしを求めない者たちに見いだされ、／わたしを尋ねない者に、自分を現した。」

21 そして、イスラエルについては、／「わたしは服従せず反抗する民に、／終日わたしの手をさし伸べていた」／と言っている。

このような頑固で、分らず屋で、不従順で、意思が強く、うなじが硬い者はいません。私はリストを続けられますが、皆さんが_____を埋めることができますと思います。ですからこれが神の答えです。

「わたしは、確信を持って言えることがあります。彼らはこの話を聞きたくなかったのだ。」しかし、ここで重要なのは 彼らはこれを聞く必要があります、私たちも同様です。これが答えです。聞きたくないとは思いますが、これを聞く必要があります、その理由が分かります。3節、さらに悪くなります。実際、非常に生々しくなります。

イザヤ 65

3 この民はまのあたり常にわたしを怒らせ、園の中で犠牲をささげ、かわらの上で香をたき、

4 墓場にすわり、ひそかな所にやどり、豚の肉を食らい、(私は結構です) 憎むべき物の、あつものをその器に盛って、

5 節を聞いてください。

イザヤ 65

5 言う、「あなたはそこに立って、わたしに近づいてはならない。わたしはあなたと区別されたもの(聖なる者)だから」と。...

何ですって？ 2週間ほど前にもこの話をしましたね。聖書に由来する現代の格言が、いくつありますか？ つまり、この”聖人ぶった” 聖書から来ているんですよ!!! 誰が言っているかという、神を怒らせ、忌まわしいことをしているこれらすべての人々です。彼らが神に言っているんです。

「わたしに近づいてはならない。わたしはあなたと区別された(聖なる)ものだから。」お~わお~そのことについて、神はこう仰っています。

...これらはわが鼻の煙、ひねもす燃える火である。

お付き合いください。少し話す必要があると思います。これは、聖なる神の御前で、いかに自分の本当の姿が見えなくなっているか教科書的事例を語っているからです。これが、罪がもたらすものです。これが「プライド/高ぶり」です。神がご覧になっておられる私たちの本当の姿を見えなくしてしまいます。「わたしはあなたと区別されたものだから、と思っているのですか？ わたしにはそうは見えません。わたしが見ているのは、あなた方がしている忌まわしいことです。あなた方がしているこれらの忌まわしい行為。そしてそれは、わたしにとって忌まわしいものです。これらはわが鼻の煙、ひねもす(一日中)燃える火である。それで、自分が聖なる者だと思うのですか？」1つ考えがあります。ちょうどこのことを考えていました実際、先ほどの話です。プライド/高ぶりといえば、、高ぶりとはこういうものです。より良い表現がないので、これを使いますが、コンピュータウイルスのようなもので、アンチウイルスを無効にすることで、コンピューターのハードディスクを破壊できるほど精巧です。それが「プライド/高ぶり」なのです。プライドが高いと、心や頭の中の検知装置が使えなくなり、自分のプライドの現実に気づかないのです。だから、プライドが高く、傲慢で、自分のことで精一杯の人には、それが見えないのです。彼らに伝えようとしようものなら、、気にする必要ありません。上手く行かないでしょうね。彼らにはまるで、外国語で話しているようなもので、「何を言っているんだ？」となります。「わたしはあなたと区別されたものだから」(プライド/高ぶり)「いいえ。あなたはそうではない。あなたは見えてないのですよ。自分の本当の姿が見えず、盲目になっているのです。」イエスが説教をしておられる時のことを思い出します。兄弟にこう言う人を説明されています。

「兄弟よ、あなたの目にはちりがある。それを取り除いてあげよう。」(マタイ 7:3 参照)

それもそのはずです。信心深さや高ぶり、独りよがりや独善的な態度、そのすべてがあるからです。

「兄弟よ、あなたの目には高ぶりのちりがある。私を取り除いてあげよう。結局、高ぶりがどんなものか

私は知っているからね。」「お～本当に？高ぶりがどんなものかどうやって分かるのですか？ この表現を聞いたことがありますか？ "takes one to know one /そう言えるのは自分もそうだから" ということ。なぜなら兄弟、私の人生の、私の目の中の高ぶりのかけらを、あなたを取り除いてくれるというの？ あなたはそのちりについて知っているのは、自分の目からそのちりが出てくるからだよ。」イエスが露骨に仰ったとは思えませんが、要点は分かりますよね？「まず第一に、私の人生の高ぶりのちりをあなたが認識し、見て、気づくのは、非常に興味深いです。高ぶりというものを知っているはず。どうして分かります？」「お～、私にはたまたま高ぶりの電柱（アンテナ）があるから、高ぶりとは何かを知っているんだ。」「じゃあまず、自分の人生の高ぶりの電柱をどうにかしてから、私の人生の高ぶりのかけらについて話しましょうよ。」私たちの罪が、他の人には恐ろしく見えても、自分には見えないのはなぜでしょうか？ なぜなら、私たちはいつも、、、、繰り返しますが、これが罪がすることなのです。私たちを見えなくするのです。そうすることで 常に自分自身を最も良い状態で映し出します。使徒パウロが自分自身について語っているところが好きです。

「わたしの肉の内には、善なるものが宿っていないことを、わたしは知っている。」（ローマ 7：18）

ある翻訳では、次のように表現されています。「私は腐りきっています。」そう、神の御前でのありのままの自分として、自身を見ている人です。これで話ができますね。今や、自分の中に、つまり自分の肉の中には、良いものは何も宿っていないの分かっています。あなたの中には高ぶりがあり、あなたの中にはこれがあり、あなたの中にはあれがある。あなたは罪びとです。それがあなたの肉にあるのです。それがあなたの肉にあり、聖なる神にとって鼻の煙なのです。6 節、

イザヤ 65

6 見よ、この事はわが前にしるされた、「わたしは黙っていないで報い返す。そうだ、わたしは彼らのふところに、

その答えは聞きたくありませんね。それがわたしの答えです。

7 彼らの不義と、彼らの先祖たちの不義とを／共に報い返す。彼らが山の上で香をたき、丘の上で”わたしをそしった”ゆえ、わたしは彼らのさきのわざを量って、そのふところに返す」と主は言われる。

わお～再度、これが彼らの祈りに対する主の答えで、彼らが聞いたかたつものではありません。しかしながら、次で見る通り、神は、神のしもべたちにとって、慈悲深い方です。

8 主はこう言われる、「人がぶどうのふさの中におぶどうのしるのあるのを見るならば、『それを破るな、その中に祝福があるから』と言う。そのようにわたしは、わがしもべらのために行つて、ことごとくは滅ぼさない。

ソドムのロトに対して、神がされたことに少し似ています。アブラハムがロトのために主にこう嘆願した時のことです。

「正しい者がいても、町全体を滅ぼされるのですか？」（創世記 18：23 参照）

アブラハムは 50 人から言い始めます。

「50 人でもなく、、、、20 人でもなく、、、、10 人。」（創世記 18 章参照）そしてこれ、、、「正しい者は 5 人もいなかった。」神は、慈悲深い神ですから。これが、ここでイザヤが語っている事で、彼らの祈りに神が答えておられるのです。「わたしは、正しい者のために、わたしのしもべのために、全ては滅ぼさない。彼らがそこにいる。わたしは彼らを滅ぼさない。わたしは正しい者を、悪しき者と一緒に滅ぼさない。」ところで、私が何を言おうとしているのか、分かるでしょう？ 患難時代前の携挙について、神は、キリ

ストにおける義のしもべたちを、主の裁きの火と硫黄が降り注ぐ前に取り去られるのです。神は正しい者を悪い者と一緒に裁くことはありません。お出来になられません。神がどういう方であるかに矛盾します。これが、神の御言葉の中で、そのことが示されているもう1つの箇所なのです。ですから神は仰います。「わたしは、わがしもべらのために行って、ことごとくは滅ぼさない。」

9 わたしはヤコブから子孫をいだし、ユダからわが山々を受けつぐべき者をいだし。わたしが選んだ者はこれを受けつぎ、わがしもべらはそこに住む。

10 シャロンは羊の群れの牧場となり、アコルの谷は牛の群れの伏す所となって、わたしを尋ね求めたわが民のものとなる。

11 しかし主を捨て、わが聖なる山を忘れ、机を禍福の神に供え、混ぜ合わせた酒を盛って運命の神にささげるあなたがたよ、

禍福の神とは？ 運命の神とは？ お～彼らは名声と富の神々でした。民が崇拝していた偽りの神々のことです。これは、神にとって忌まわしいことでした。神は民に呼び掛けておられます。

12 わたしは、あなたがたを／つるぎに渡すことに定めた。あなたがたは皆かがんでほふられる。あなたがたはわたしが呼んだときに答えず、...

これは大変重要です。これを見逃してしまうと、神の義と神の憐れみを誤解してしまいます。それらは共存しているからです。ですから神は仰います。「わたしがあなたがたを呼びました。わたしがあなたがたに手を伸ばしました。わたしは、あなたがたに悔い改めてわたしのもとに来る機会を与えました。わたしがそうしたら、あなたがたはどんな反応をしましたか？」返事せず、無反応。

...わたしが語ったときに聞かず、...

ここ、さっと言います。神は常に語っておられます。それが問題ではありません。それは問題ではなく、神はいつも語っておられます。問題は、「私たちが聞いているのか？」です。神は常に語っておられます。神は、私たちの注意を引き、私たちの人生に語りかけるために、あらゆる手段を講じてくださいます。しかし、私たちは耳が鈍く、聞く耳を持っていないのです。そのため、よくあるのが、、私がこれを言うのに飽き飽きしないしてほしいのですが、私がこれをするときには、聖書預言・アップデートが証明ですが、言う必要があるのは、往々にして、共有しようとすることは、聞く耳のある人にだけだと言うことです。耳はありますか？ 神は語っておられるからです。今でさえ。それが問題ではありません。問題は、神が何を仰ろうとしているのか、それを聞く耳を持っているかどうかです。ご存知ですか？ これって、、皆さんが私を愛して下さり、私にとっても親切で、私の馬鹿げた描写に我慢して下さるのを分かっていますが、私たちには耳蓋がないことに気づいていますか？ OK。私の前置き方法分かりますね？だって、目蓋はあるのですよ。だから目を閉じれます。耳は閉じれません。耳蓋がないから。ふむ。。ふむ。。と言わせませぬ。耳を蓋することが出来ないのに、私たちは閉じられる。どうやってするのか？ただこんな風に、、お～あなたは、彼らがあなたに話しかけているのに実際あなたが聞いていないのです。あ～得意なのです。私がそうである通りで、告白します。しばらくすると上手くできるようになりますよ。適材適所に、「うーん、そうなの？」を入れていく感じです。それから相手は、あなたが聞いていないことに気づき、あなたを捕らえます。あなたは「ふーん、そうなの？」で、相手は「私の話を聞いていないの？私が質問しているのよ。」あなたは言います。「ふーん、そうなの？」「あなたは私の話を聞いていない！！」子どものころ、母は、何というか、、母を心から愛しています。母が大変恋しいです。でも何というか、母にはこの、こういう周波数があって、独特のトーンで、私に怒った時に、母は音を奏でます。訛りのあ

る音を出すのです。彼女はこう言いました。「ワヒド~~~~~！！」彼女がその音を出すと、それが何オクターブかは分かりませんが、それしか聞こえません。そのあとは、すべて○△□XXX～●▲■XXX～で、何を言っているのか分かりませんでした。それが、私たちが主に対してしている事です。排除してしまうのです。なぜなら、神が語っておられるのに、私たちには聞こえないからです。さらに悪いのは、ここでの、主を求めた者たちとの対照的な姿がわかりますか？ 10節で分かるのが、「わたしを尋ね求めたわが民」主を求める人々について語っておられます。主は、熱心に主を求める者に報いて下さる方です。しかしその後、11節で方向性が変わってこう仰います。「しかしわたしを捨て、わたしを求めない者もいる。わたしはまだ彼らに憐れみをかけ、彼らに語り、手を差し伸べている。」しかしここでは、主を求める者と主を捨てる者との対比があります。これから見る通り、この対比は更に、はっきりとします。13節、

イザヤ 65

13 それゆえ、主なる神はこう言われる、「見よ、わがしもべたちは食べる、しかし、あなたがたは飢える。見よ、わがしもべたちは飲む、しかし、あなたがたはかわく。見よ、わがしもべたちは喜ぶ、しかし、あなたがたは恥じる。

14 見よ、わがしもべたちは心の楽しみによって歌う、しかし、あなたがたは心の苦しみにによって叫び、たましいの悩みによって泣き叫ぶ。

15 あなたがたの残す名は／わが選んだ者には、のろいの文句となり、主なる神はあなたがたを殺される。しかし、おのれのしもべたちを、ほかの名をもって呼ばれる。

16 それゆえ、地にあつて／おのれのために祝福を求める者は、“真実の神”によっておのれの祝福を求め、... (これ覚えておいてください) ...地にあつて誓う者は、“真実の神”をさして誓う。さきの悩みは忘れられて、わが目から隠れうせるからである。

OK、これは前述の神の慈悲と義の深遠な描写です。神が義でない限り、神は慈悲深い方になることが御出来になりません。同時に、神が慈悲深い方でなければ義なることが御出来になりません。繋がりがわかりますか？「あなたはわたしを求めました。わたしのしもべよ。見よ。わたしはあなたを祝福する。しかし、わたしを捨てた者は、、主は決して私たちを離れず、見捨てられません。しかし、私たちが主を捨てるなら、主は私たちを捨てられます。神は私たちにご自分を押し付けることはあられません。

...さきの悩みは忘れられて、わが目から隠れうせるからである。と神が仰る時、神が、裁かなければならぬ罪から目をそらさなければならぬからです。神は、正義の裁きを下さねばならないからです。罪を見て見ぬふりをするのが、お出来にならないのです。正義の神だから。しかし、憐れみの神でもあられます。ですから私たちが、神のもとに来て、神を求め自分の罪を神のもとに持っていくなら、先週学んだ通り、あれはどれほどパワフルだったのでしょうか？ 私たち自身の義は、汚れた布のようなもので、その意味について話しましたね。私たち自身の義が汚れた布のようなものであれば、私たちの罪はどのようなものでしょうか。じゃあ、私たちは罪をどうしたらいいのでしょうか？ 神は慈悲深い神だから、それを神のところを持って行くのです。救い主によって、その罪が完全に贖われたのです。そこで神は、両手を広げて下さり、仰るのです。「わたしのもとへ来なさい。なのにあなたはそうしない。」「わたしのもとへ来なさい。わたしはあなたに両手を広げています。あなたに語り掛けているのです。なのにあなたは聞かず、来ない。」つまり、これは、、強烈なのは分かっています。私はこれを聞きたくないし、教えたくはないですね。この章の15節の「火と硫黄で主なる神はあなたがたを殺される」という言葉が好きでは

ありません。しかし、神は正義の神なのです。皆さん、たぶんここにおられるか、オンラインで見ている人のためですが、もう一度、例え話をします。あなたが恐ろしい犯罪の被害者で、今、法廷にいます。裁きをする裁判官がいます。あなたに対するこの恐ろしい犯罪の加害者が、これから正義の裁きを下されます。もしその裁判官が不公平で、あなたに対するその犯罪の加害者にこう言えばどうでしょう。「いいですか？ よろしい。今回は見逃してあげますよ。」「待って。何だって？ 公平じゃない。公平じゃないよ。行いに応じて、報いがあるのに。」”主なる神はあなたがたを殺される”主の慈悲と恵みと赦しを求めて来る者に、主がチャンスを与えられないとは、一瞬たりとも思わないでください。神は、決して強いられませんよ。ですから、あなたが決心して心を固くし、運命を決めてしまったのだから、わたしは、正義の裁きを下さなければなりません。

17 見よ、...

あ～17 節からこの章の残りの部分まで、神に感謝します。これが、“事前に後のこと”を指すものです。神は、私たちの祈りを受け止め、祈りを超え、さらにその先にあるものへ導いて下さいます。何が待っているのでしょうか？ 17 節です。

17 見よ、わたしは新しい天と、新しい地とを創造する。さきの事はおぼえられることなく、心に思い起すことはない。

これが、よく聞かれる質問の答えです。天国で、私たちは何かを覚えているのでしょうか？ そうでないことを願います！！ それなら天国ではありませんよ。ヨハネが言う事が大好きです。こう言っています。“私たちは肉によつての誰も知ることはない”あ～よかった皆さん、私を覚えていないでしょう。その意味とは、別の質問ではありますが、私たちは、天国でお互いを分かりますか？ ーはい。でも、地上にいた頃のことは覚えていないの？ ー覚えていません。ある牧師がこの質問に答えた方法が気に入っています。その牧師の言葉を引用するだけなので、私に変なことと言わないで下さいよ。彼はこう言いました。「天国ではこれ以上バカにならないよ。」ー(笑)ー 人が言ったことの引用ですからね。じゃあ、私たちは何をすればいい？ 名札があるの？ ーいいえ。事実、これは私が抱いていた疑問であり、その答えを得たと思います。栄光の中なので、私たちは分かるのです。「あ、あれはノアだ。」「あれは、モーセだ。」あり得ない！！あり得ます！！ 「パウロはどこ？」「あそこにいるよ。」「あ、パウロだ。」あり得ない！！ 私たちは分かるのです。しかし、地上で知り合ったように天国で知り合うことはありません。そのことで主を褒めたたえます。”さきの事はおぼえられることなく、心に思い起すことはない。”なぜ神は、63 章と 64 章の祈りに、このように答えられるのでしょうか。なぜなら これこそが、神の善良さなのです。神の善良さ。これが楽しみなのです。元気を出してください。知っていますか？「わたしは新しい天を創造します。」それって、どうですか？「そして新しい地も創造します。」今、それが必要ですね。地球温暖化や気候変動のことは忘れてください。環境に優しくないから、発泡スチロールも買えなくなった。新しい地を手に入れるのです。脱線しましたね。話して、すっきりしたかったんです。それが問題ですが、私の問題はもう十分ですね。「わたしは新しい天を創造します。」神は、永遠の未来について話しておられます。ここで、あまり混乱しないでください。17 節で新しい天と新しい地のことを仰っていますが、神はズバツと方向を変えられます。不意打ちを食らわないようにしてください。この後、千年王国/王国時代に突入し、私たちはそれも楽しみだからです。ですから 17 節で、「わたしは新しい天と、新しい地とを創造する。さきの事はおぼえられることなく、心に思い起すことはない。」

18 しかし、あなたがたはわたしの創造するものにより、とこしえに楽しみ、喜びを得よ。見よ、わたし

はエルサレムを造って喜びとし、(新しいエルサレムですよ) その民を楽しみとする。

19 わたしはエルサレムを喜び、わが民を楽しむ。(お〜これ大好きです) 泣く声と叫ぶ声は再びその中に聞えることはない。

お〜待ちきれません。新しい天、新しいエルサレム、新しい地が永遠に続く。これは考えてみれば、人の罪に関する人の祈りに対する究極の答えです。それが千年王国の”後”に、新しい天と新しい地という方法でなされるのです。再度、神は私たちの祈りに”事前に後のこと”を教えて下さいます。何を楽しみにしているのかが分かると何があっても簡単に乗り越えられます。私には楽しみにしている事が分っているから。受け取っていただけましたでしょうか。もう一度は言えませんか。20 節、ここでズバツと角を曲がります。シートベルトを締めてください。新天新地から王国時代へと話が行きます。この説明を聞いてください。お許しいただきたいのですが、お〜 願わくば神よ、地上で文字通りの 1000 年間、主と共に支配し、主とともに王座に着くことについてを私たちがよりよく理解できますように。栄光の体で 1000 年間です。1000 年間、主の側で主の花嫁として。永遠に続く、新しい天と新しい地は、まだです。1000 年王国が先です。あっという間に時間が過ぎてしまいます。楽しければ時間は、あっという間に過ぎていくものです。そうなるので、大変楽しそうです。20 節、

イザヤ 65

20 わずか数日で死ぬみどりごと、おのが命の日を満たさない老人とは、もはやその中にいない。百歳で死ぬ者も、なお若い者とせられ、百歳で死ぬ者は、のろわれた罪びととされる。

お〜そんな人は、まだお子ちゃまです。待つて。はい、待ちます。既に私は、不意打ちを食らっています。21 節まで、まだ行ってないんです。人々が千年王国で死ぬのですか? ーはい。説明させてください。ここで、聖霊の助けを借りて最善を尽くしますね。千年王国時代、 アダムとエバのように、子孫を残せる体を持つ人たちがいます。そして地上は、世に罪が入る前の状態です。アダムとエバのような体の人々は どうやって千年王国に入るのか? 100 歳で死んだら、まだ子どもだと見なされるなら。7 年間の患難時代をどうにか生き延びて、患難時代の終わりの再臨の時に生きている人がいるからです。「ヘブル人への手紙」で学んだように、

”人は一度死ぬことと、死後裁きを受ける事が定められている (9:24) ”

とありますが、彼らは死を見たことがないのです。彼らは、どうにか反キリスト体制外で生き、7 年間の患難時代を生き延びたのです。7 年間の患難時代の終わりの再臨時に、彼らはこの千年王国時代に入ります。今から読むように、地は再び、罪がこの世に入る前の元のようになっています。神がアダムに

「善悪を知る木から取って食べると、きつと死ぬ。(創世記 2:17)」

仰った時、彼はその日のうちに死ななかった ーいいえ。死にました。つまり、私たちにとっての 1000 年は、主にとっては 1 日のようなものだからです。(II ペテロ 3:8)

アダムは、930 歳で死にました。それが 1 日のようなものです。1000 年が。千年王国は 1000 年の期間です。これは最終的に、なんと言えはいいか、7000 年目です。お分かりいただけたでしょうか? 6、千年。7 は、完成数です。7 で完成です。千年王国は、最後の 7 番目の 1000 年なのです。千年王国の 1000 年で完成です。お〜この時代のことをもっと知りたいですよ。待ちきれません。つまり千年王国は、新天新地の前兆のようなものです。そして、千年王国時代に生まれてくる子どもたちがいます。千年王国に入るその人々は、子ども、孫、曾孫、曾々孫、曾々...を 1000 年間に生みます。しかし、それでもなお死があります。まだ天ではありませんから。天国では、もう死はありません。しかし千年王国時代には死が

あります。罪もあるでしょう。待って。何ですって？ 私たちにはありませんよ。以前、この質問をされたことがあります。正直言って、私も以前この質問をしました。千年王国でも、天国でさえも、まだ罪を犯したくなれるのでしょうか？ いいえ、私たちは栄光の体を手にいれるのですから。私たちはイエスのようになります。もう罪はありません。もはや、悲しみも、死もありません。(黙示録 21:4 参照) しかし千年王国時代、”百歳で死ぬ者は、のろわれた罪びととされる。”21 節、

イザヤ 65

21 彼らは家を建てて、それに住み、ぶどう畑を作って、その実を食べる。

22 彼らが建てる所に、ほかの人は住まず、彼らが植えるものは、ほかの人が食べない。わが民の命は、木の命のようになり、わが選んだ者は、その手のわざをながく楽しむからである。

木というのは、あの木を見たことがある人は、「あの木は、樹齢 800 年です。」わお～そう、それが彼が語っていることです。彼らの人生は、木の寿命のようなものだ。人がそれだけ長く生きることができるのです。1000 年間です。

23 彼らの勤労はむだでなく、その生むところの子らは災にかからない。(今の時代に良い聞こえですね。失礼。) **彼らは主に祝福された者のすえであって、その子らも彼らと共にいるからである。**

24 彼らが呼ばないさきに、わたしは答え、...

すごい！ 祈りが通じるとはこのことですよ。祈る前に…おしまい！ わお～それ大好きです！！

...彼らがなお語っているときに、わたしは聞く。

そして 25 節は、実際によく参照され、よく知られています。

25 おおかみと小羊とは共に食らい、ししは牛のようにわらを食らい、へびはちりを食物とする。彼らはわが聖なる山のどこでもそこなうことなく、やぶることはない」と主は言われる。

それを見たいです。見れますよ。見れます。翻訳によっては、獅子と子羊、狼と子羊となっています。彼らが寄り添っている感じですね。子羊の隣に獅子、子羊の隣に狼がいる。こんにち？ ラムチョップになります。言ってみただけですよ？ でも千年王国は違います。わお～これはすごいことになりそうですね。はいそうです。理由を知っていますか？ そこには悪魔がいないからです。この話をしましょう。聖書の学びを終える前に、ここでこれを理解するのが大切だと思います。サタンは、底なし沼に落とされ、鎖で繋がれているので、誘惑できません。だから、このような状態になるのですサタンがそこにはいないから。要点は？ 考えてみてください。こんにちの世界で見られる全てのことが、サタンの仕業です。「エペソ人への手紙 6 章」を軽視するのは、大きな誤りだと思います。使徒パウロは、御霊によって語ります。

「わたしたちの戦いは、血肉に対するものではない。」(エペソ 6:12)

戦います。戦いは全体の様相を変えますね。私たちが喧嘩や、争ったりするのではなく、格闘なのです。レスリングについてご存知の方、それって疲れますね。体のあらゆる部分に関わってきます。ヤコブを考えます。彼は一晩中、主と格闘していたと語られています。(創世記 32:24)

神の祝福を求めて格闘しています。神は「あなたを砕かない限り、あなたを祝福できない。」と仰います。祝福は、砕かれてから来るのです。祝福してほしいのですか？ あなたは強すぎる。あなたは硬すぎます。あなたを祝福する前に、あなたを砕かねばならないのです。祝福の前には必ず砕かれます。ですから、私たちが格闘する相手はサタンです。実際、エペソ人への手紙 6 章では、もっと具体的に書かれています。パウロは、霊的な領域における 4 つのランクと実体を区別しているからです。千年王国時代、悪魔た

ちはどこにいるのか？そこにはいません。アロハ～ サタンは、そこにはいないですよ。その大部分が、強制された正義と支配と統治との一致説明されています。そして...ああ、これは...さらに興味深いですね。自分に十分な時間を残すようにしています。お付き合いください。私たちは、今ここ地上で行ったことに基づき、千年王国時代の1000年間、キリストと共に支配し、統治する責任を与えられます。それをよく考えてください。それを深く考えてください。言い換えれば、千年王国で与えられるものは、本当にこれは永遠に続くもので、私たちは自分自身のために、虫やサビがつかない宝を、国税庁、いや泥棒が侵入して盗めない天に蓄えます。ですから、天国での報酬や王冠、宝物は、地上で何をしたかに応じて異なるものになります。小さなことに忠実であると認められれば、多くのことを任せられます。なので、忠実な良いしもべとして私は認められたいと思います。私は千年王国時代、島々を神にお願いしているからです。お願いしている方、すみませんが、私がもう先に決まっています。私たちは、その1000年の間、忠実さに基づいて担当を与えられます。こう言えるのではないのでしょうか。これは公平に言っても、強制的な正義です。ですからサタンはそこにはいません。私たちは王国時代、キリストと共に支配、統治します。キリストが今、王座について支配しておられるからです。しかし統治、支配に対してまだ不義が存在します。その1000年の間、義が強制され、そこにはサタンはいません。では、話を元に戻して締めくくります。一緒に考えてみてください。今の世界で経験していることは、すべて悪魔のせいです。「ちょっと待ってください、牧師さん。肉、世、悪魔、このビッグ3だと思っていました。」そうですよ。ですが、サタンは、罪の鉄を彼自身に引き寄せて引き出す磁石のようなものです。ヤコブがこれを指摘しています。実に、御心なら、2、3週間以内に学びます。今週ではありません。まだです。待たなくちゃいけません。しかしヤコブが語ります。「誘惑されることは罪ではなく、誘惑されて、誘惑に陥るのが罪。」観念があります。誘惑されるのが罪であれば、イエスは誘惑されました。イエスは罪を犯さなかったのだから、罪になりません。誘惑されることは罪ではありません。罪とは、誘惑に陥る事です。1000年以上、誘惑する悪魔がいません。そこには、それだけですべてを説明できます。千年王国の1000年間に、そういうことがあるとしたら、では今、起こっている事のための_____を埋めれますね。彼はまだ底なし沼に落ちていないのですから。最後の1つです。クリスチャンにとって何が問題かと言うと、どちらかの極端な方向に行ってしまう両方とも聖書に反します。一方に極端になって、悪魔を実際よりも強くしてしまうからです。反対の極端になると、サタンの力の強さを否定します。サタンは、神の対極ではありません。サタンは全知全能ではありません。彼はすべての力を持っているわけではありません。サタンは遍在しません。同時にどこにでもいるわけではありません。ところで、次にあなたが「今週は悪魔にやられた」と言ったら、「悪魔自身が?? ほ～どうやって分かるの?」なぜなら、彼は一度に何か所しかいられないからです。そうじゃなく、彼には手下、主権、暗闇の力、天上にいる邪悪な者たちがいます。これらの悪魔的な力です。彼らがそうなのです。悪魔ではありません。もしも悪魔があなたの上にいるのなら、私に近づかないでください。それが私の言えることです。だって、悪魔でしょ? 彼は神の対極ではありません。彼はそうではありません。だから私たちは、どちらか極端になれば間違うのです。彼はそれほど強力ではありません。彼は神の対極ではありません。しかし、どちらでもありませんが、彼は私たちに、どちらか極端になってほしいと思っています。彼は、私たちが彼の力を誇張するのが好きなのですが、実際にはそうではありません。しかし、彼は私たちが彼を軽視するのも好きなのです。赤いタイツを履いて、ピッチフォークを持って角があるような小さな生き物として。彼はそう思われるのも好きです。そうすれば、あなたを捉えられるから。しかし彼が、私たちが格闘する相手です。これで1000年の間、サタンが

いない、キリストの臨在で支配統治する、そういう状態になる理由が説明できます。私には理解できません。また、私にとって、世界がこのようになっている理由も説明になります。ところで、サタンはまだこの世、地上を支配しています。彼は、今でもこの地上を支配する力がある悪魔です。イエスは、、ヨハネの黙示録の中にありますが、このことに触れるべきではなかったのですが、ヨハネの黙示録にこんな記述があります。嘆きの声が聞こえる箇所です。「その巻物を開き、封印をとくのにふさわしい者は、だれか」（黙示録 5:2）巻物とは？ 地上の権利書です。イエスが買い戻されたのです。サタンから。あ～それはまた別の機会にしましょう。カポノ（賛美リーダー）上がってきてください。皆さん、ご起立ください。締めくくります。ああ、これは非常に、非常に、非常に面白い章ですね。たくさんたくさん詰まっています。繰り返しますが、最初始めた状態に戻ります。これは、民の祈りに対する神の答えです。神の答えは？ こんな風に纏められます。「お～あなたがこれから何が起こるかを知ってさえいれば！」ひゅ～それが視野にあると、全てが解決します。「でも、主よ～～」「新天新地ですよ。」「分かりました。」「ええ、でも～～」「千年王国。獅子と子羊が、お互いではなく、一緒にポケを食べるのですよ。」OK、ちょっとやりすぎですね。要点は分かりますね。祈りましょう。

天のお父様。ありがとうございます。お～主よ、本当にありがとうございます。この章をありがとうございます。私たちの焦点を合わせ直し、この邪悪な世、悪魔の世から目を離させて下さり、栄光が待ち受ける、新天新地、千年王国へ目を向けて下さるからです。お～主よ、あなたのしもべとして、あなたを求める者として、あなたを見つけた者として、それが私たちです。これはあなたが私たちのためにご用意下さっている事です。これがあなたの、私たちへの答えです。傷ついた心に、なんて心地の良い香油でしょう。主よ、これが多くの人が切実に必要としている励ましになるよう祈ります。傷つき、苦しんでいる多くの人たちが。主よ、私たちはこれを聞く必要があります。これは、私たちの祈りに対するあなたの答えです。あなたは私たちの叫びの声に耳を傾けてくださるのです。主よ、本当に、本当に、本当に、ありがとうございます。そうあらしめよ、主よ。マラナタ。主イエスよ、早く来ててください。イエスの御名によって祈ります。アーメン。

メッセージ by JD Farag 牧師カルバリーチャペルカネオヘ

<http://www.calvarychapelkaneohe.com/>

Calvary Chapel Kaneohe 47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii

筆記 hukuinn7